

神経内科ハンドブック

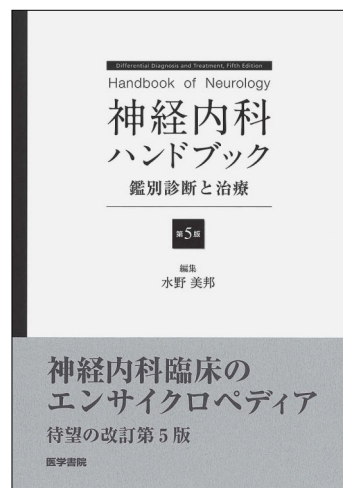
鑑別診断と治療 第5版

水野 美邦【編】

評者

野元 正弘

愛媛大学大学院教授・薬物療法・神経内科



『神経内科ハンドブック』第5版が刊行された。『神経内科ハンドブック』は水野美邦先生を中心として順大脳神経内科のスタッフで執筆され、初版の出版時から、わが国で最もよく用いられている神経内科学の臨床書である。神経内科学を専攻し専門医を取得する時期の医師および、その後、外来や病棟で診療に当たる医師を対象に執筆されているが、血管障害、認知症などの common disease から希少疾患まで、広い分野に対応できるように編纂されており、専門医取得後も常に復習にも用いることができるので、神経内科学を専攻する医師の教科書となっている。数年ごとに改版されて内容が一層充実しており、今回からは順大出身の望月秀樹先生が阪大神経内科学講座を担当されるようになったことから、阪大関連の先生方も執筆に参加されている。

構成はよく吟味されて項目が設

けられており、神経学的診察法から局所診断、鑑別診断さらに神経学的検査法が詳述され、解剖学、生理学の基本を振り返りながら勉強できる内容となっている。特に「症候から鑑別診断」は日常の診療で課題となる訴えや症候から、実施すべき検査や鑑別すべき疾患への道筋が詳述されており、素晴らしい項目である。その考え方をぜひ学んでいただきたい。各論では common disease から希少疾患まで、いずれの項目も詳細に検討されて執筆されており、内容は正確で神経内科学を勉強する医師にとって、最高の教科書となっている。また、新しい内容がタイムリーに更新されており、大きな発展を遂げて開発が今も盛んな抗腫瘍薬による神経障害の項目でも、新しい薬が十分に追加されているなど、日本で書かれた神経内科学教科書で、最高の書といってよい。その分、前版からの頁数の増加は

やむを得ないと思うが、大きさはA5判とコンパクトであり、日常の診療の中でも使いやすく、神経内科学を専攻する医師にとって必須の教科書と言ってよい。紙面も2色刷りになっており、基本として記憶すべき英語名は色文字としている点など、専門医などの受験には特に有用である。

以上のことから、この『神経内科ハンドブック 第5版』を神経内科医の素晴らしい教科書として推薦する。本書は今後さらに広く用いられて神経内科診療の一層の充実に貢献することを確信している。

A5・頁 1,368

2016年9月

定価：本体 13,500 円＋税

[ISBN978-4-260-02417-4]

医学書院刊